

実践記録

学校/学年	中学校／1年	
教科等・単元名	技術・家庭科：「情報伝達の安全性とマナー」	
キーワード	情報モラル	
情報モラル指導 モデルカリキュ ラム表における 目標	分類	☐ 情報社会の倫理 ☐ 法の理解と遵守 ☒ 安全への知恵 ☐ 情報セキュリティ ☐ 公共的なネットワーク社会の構築
	大目標項目数字 大目標項目内容	D3: 情報社会の危険から身を守るとともに、不適切な情報に対応できる F3: 安全や健康を害するような行動を抑制できる
	中目標項目番号 中目標項目内容	D3-1: 予測される危険の内容がわかり、避ける。 F3-2: 人の安全をおびやかす行為を行わない。
授業会場	☒ パソコン教室 ☐ 普通教室 ☐ 特別教室〔 〕 ☐ その他〔 〕	
学習の目標	コンピュータを用いた情報伝達において注意すべき点を理解し、モラルの必要性に気づくことができる。	
使用教材	教材名	情報モラル指導事例指導事例集
	製作者	財団法人コンピュータ教育開発センター
	入手先（URL等）	http://www.cec.or.jp/CEC/

○学習展開案

	学習活動	指導 評価◎
導入	事例を見て、情報伝達の問題点と理由について考える。	ストーカーメール、チェーンメール、メール相手とのトラブルなど事例をもとに考えさせることで生活と結びつけて考えることができるようにする。
展開	なぜ事例のような問題が発生するのか考える。	意見交換を通して、自分で気づかなかったことも知り、幅広い知識を持ち、より深い考え方ができるようにする。
おわり	コンピュータを安全に使うための知識や心がけについてまとめる。	◎正しい知識や活用方法を理解し安全に便利にコンピュータを活用しようとする気持ちが持てたか。

○授業の実際

- ・被害経験がある生徒が比較的多く、問題点や理由については早く気づくことができた。
- ・問題発生の原因についても道徳的な見地から積極的な意見交換ができた。

○授業の成果

- ・インターネットなどでの情報伝達では危険な場面がたくさんあることを具体的に理解させることができた。
- ・間違ったり、気軽に利用することで周囲の人にも迷惑をかけることに気づかせることができた。

○指導のポイント・留意点

- ・ますます巧妙化する内容も紹介し、生徒自身の問題として捉えさせるよう工夫する。
- ・事例は実際にあるものを提示して、具体的に考えさせることがよい。